様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ９ 月 ２８ 日現在

機関番号：３４５２７
研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｈ０５１４７

研究課題名（和文）南アジアの紅玉髄製工芸品の流通と価値観－「伝統」と社会システムの変容の考察

研究課題名（英文）Trade and Values of Carnelian Ornaments in South Asia: Study on Change in Tradition and Social System

研究代表者
小磯　学（KOISO, MANABU）

神戸山手大学・現代社会学部・教授

研究者番号：４０４５４７８０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,800,000円

研究成果の概要（和文）：南アジアの紅玉髄製ビーズの歴史的背景、製作と製品、身に着ける場（日常と祭り）について調査を進めた。原石の流通（＝採掘・製品製作・販売・使用）に関わるインド西部のグジャラート州、東端のナガランド州、及びパキスタン東部のパンジャーブ州のほか、古代に紅玉髄製ビーズを多用したミャンマーと中国雲南省でも基礎的調査を行った。またナガランド州では集落の地理的環境調査も実施した。
　流通の各工程には各々アフリカ系の民族集団スィッディー、ヒンドゥー教徒、イスラーム教徒、ジャイナ教徒、キリスト教徒が関わっており、南アジア固有の多民族・多宗教社会における紅玉髄への多様な価値観に支えられた「ビーズの文化」を探った。

研究成果の概要（英文）：Having set their eyes on carnelian ornaments -specifically beads- of South Asia, the members of the Project have concentrated their respective surveys in the state of Gujarat (where raw stones of carnelian are mined and then worked into ornaments), the state of Nagaland and the state of Punjab in Pakistan (both being the major export destinations from Gujarat). Basic surveys at Myanmar and the Yunnan province of China was also carried out where carnelian beads were popular in ancient days. Geographical setting of some of the villages of Nagaland has also being analysed.
　Siddis (of African origin), Hindus, Muslims, Jains and Christians are engaged in mining, manufacturing, selling and usage of carnelian respectively, reflecting diversity of ethnicity and religion of South Asia. Values attached to carnelian differ among respective groups which also change through time, though trading network has been sustained as a part of ‘the Bead Culture’ of South Asia.

研究分野：南アジア文化誌

キーワード：紅玉髄　ビーズ　流通　価値観　伝統　民族　南アジア　ナガランド

平成　30 年　6 月　12 日現在

研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2015～2017
課題番号：15H05147
研究課題名（和文）　南アジアの紅玉髄製工芸品の流通と価値観－「伝統」と社会システムの変容の考察
研究課題名（英文）　Trade and Values of Carnelian Ornaments in South Asia: Study on Change in Tradition and Social System
研究代表者　小磯　学（KOISO, Manabu）
神戸山手大学 現代社会学部 観光文化学科・教授
研究者番号：40454780

研究成果の概要（和文）：
南アジアの紅玉髄製ビーズの歴史的背景、製作と製品、身に着ける場（日常と祭り）について調査を進めた。原石の流通（＝採掘・製品加工・販売・使用）に関わるインド西部のグジャラート州、東端のナガランド州、及びパキスタン東部のパンジャーブ州のほか、古代に紅玉髄製ビーズを多用したミャンマーと中国雲南省でも基礎的調査を行った。ナガランド州では集落の地理的環境調査も実施した。
流通の各工程には各々アフリカ系の民族集団スィッディー、ヒンドゥー教徒、イスラーム教徒、ジャイナ教徒、キリスト教徒が関わっており、南アジア固有の多民族・多宗教社会における紅玉髄への多様な価値観に支えられた「ビーズの文化」を探った。

研究成果の概要（英文）：
Having set their eyes on carnelian ornaments – specifically beads – of South Asia, the members of the Project have concentrated their respective surveys in the state of Gujarat (where raw stones of carnelian are mined and then worked into ornaments), the state of Nagaland and state of Punjab of Pakistan (both being the major export destinations from Gujarat). Basic surveys at Myanmar and the Yunnan province of China was also carried out where carnelian beads were popular in ancient days. Geographical setting of some of the villages of Nagaland has also being analysed.
Siddis (of African origin), Hindus, Muslims, Jains and Christians are engaged in mining, manufacturing, selling and usage of carnelian respectively, reflecting diversity of ethnicity and religion of South Asia. Values attached to carnelian differ among respective groups and also change through time, though trading network has been sustained as a part of ‘the Bead Cultures’ of South Asia.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
27 年度	5,100,000	1,530,000	6,630,000
28 年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
29 年度	3,100,000	930,000	4,030,000
総　計	11,800,000	3,540,000	15,340,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：地域研究
キーワード：紅玉髄、工芸品、流通、価値観、伝統、南アジア、ナガランド、パキスタン

１．研究開始当初の背景

平成 25－26 年度科研費挑戦的萌芽研究（成果報告書：小磯学（監修）・遠藤仁（編）2015『南アジアの紅玉髄製工芸品の流通と価値観 ―「伝統」を支える社会システムの考察』神戸夙川学院大学）を継続する研究である。当研究によって得た基礎的な情報に基づき、原石の採掘地・製品加工地のあるインド西部のグジャラート州、そこからの主たる輸出先である東端のナガランド州、及びパキスタン東部のパンジャーブ州での調査内容をさらに詳細に行った。

２．研究の目的と調査地

南アジアの紅玉髄製工芸品－とくにビーズ－の流通（採掘･加工･使用）とこの石材への価値観や信仰、象徴性（精神文化的側面）、歴史的変遷を出土遺物や史料を通して明らかにすることを目的とした。

図 1　調査地及び関連地域

(1) **グジャラート州カンバート：**紅玉髄製工芸品の製作地である同地で、原石加工・製品化に共同で携わるヒンドゥー教徒とイスラーム教徒、販売業に携わるジャイナ教徒の社会的関係を明らかにすることを目的とする。

また近郊の産出地ラタンプルには、アフリカ起源の民族集団スィッディーが採掘に従事している。同地には紅玉髄製ビーズの交易の発展に尽力したアビシニア（エチオピア）出身の 15 世紀の聖者バーワー・ゴールの墓があり、カンバートの彼の記念碑とともに彼らの祈りの対象になっている。

(2) **ナガランド州**：カンバートからの主たる輸出先である同州では、民族集団ナガが古来より紅玉髄製ビーズを中心に据えた首飾りが好まれている。村によっては男女ともに 1、2 連のシンプルなものを日常的に身に着け、最大 10 連の豪華なものを祭りなどの際の正 装用としている。この 100 年ほどの間にナガの 99%はキリスト教徒に改宗したが、首飾り及び祭りは改 宗以前の精霊崇拝など古来の伝統文化に基づくものである。首飾りはこうした古い伝統 と新しい伝統との接点に位置している。

①人々にとってのこうした首飾りの意味を探る。

②また同州の 70 ほどのナガ集団の首飾りの類型と分布を明確にするために、主だったナガの首飾りのデータ化（実測・写真撮影）を進める。

③さらに、人々が暮らす集落の地理的な特徴 を把握する調査も行い、彼らの生活の基盤についての考察を深める。

図 2 祭りで正装したアンガミ・ナガの男女（©Vilieme Kuotsu）

(3) **パキスタン・パンジャーブ州：**ムハンマドがこの石の指輪をしていたという伝承もあり、紅玉髄製のビーズや護符はイスラーム教徒らにも好まれている。また紅玉髄の表面に文字を白く浮き出たせる「漂白加工」の技法について、その詳細を明らかにする。

(4) **ミャンマー・ザガイン地方域：**今日のナガの人々の居住域は国境を接するミャンマーのザガイン地方域にも広がっており、ナガランド州側との祭りや首飾りなどの比較検証を行う。また古代ミャンマーでは前 5 世紀頃から 1500 年間にわたり紅玉髄製ビーズが好まれ、インド側からの影響とともに同国内での採掘・製作の実情を探る必要がある。

(5) **中国雲南省：**この地にも紅玉髄の産出地が知られ、2300 年ほど前にビーズが多用された。ただしインドやミャンマーとの関係も指摘されており、どの産地の紅玉髄がどのような技法によって加工されたのか、不明な点は多い。基礎的な調査から情報を集めていく必要がある。

３．研究の方法

現地の人々からの聞き取りに基づく民族学的調査を基本とする。同時に文献資料の収集と精査を行う。

またナガランド州の一部の村の地理学的な空間解析については、現地調査とともにコロナ衛星画像などの人工衛星の写真を用いて分析を行う

４．研究成果

(1) グジャラート州カンバート：

①**多宗教**　ヒンドゥー教徒の職人をイスラーム教徒の職人が雇うなど宗教の枠を超えて紅玉髄及び各種準貴石類の加工・製品化

が進められている現状を確認できた。

②スィッディー　紅玉髄の産出地で採掘に 従事するスィッディー、そして彼らが信仰するバーワー・ゴールとカンバートとの結びつきが予想以上に強いことが明らかとなった。この町の同聖者の記念碑には、命日祭に歌舞 を捧げるためにスィッディーが訪れ、カンバートの多くの職人も参加するという。日程が 合わずその取材は今後の課題として残されたが、聖者崇拝をも受け入れつつ、多民族・多宗教が共存し紅玉髄やその他の準貴石製工芸品の製作が維持されている。

(2) ナガランド州：

①祭りと装身具　清浄儀 礼の意味もある 2 月頃に開催されるセクレニ の祭りでは、豪華な首飾りなどで正装して広場で歌舞を披露し村の繁栄を祈念する。キリスト教徒となった今日では（数名残る年配の精霊崇拝者を除き）宗教色は薄れたものの、普段は家宝として大事に仕舞われている首飾りを身に着けることはナガとしての自覚を促す行為といえる。キリスト教への改宗がほぼ行き渡り、以前の精霊崇拝や古来の文化が大きく変容を遂げた現在でも、首飾りに代表される装身具や衣装はナガとしてのアイデンティティの証となっている（かつてはキリスト教会によって「未開」の象徴とした否定されたこともあった）。また 2000 年に州政府主催で始まったホーンビル・フェスティバルでは、州内全域から 16 ほどのナガ集団が終結して古来の歌舞を披露しており、新たな伝統が育まれつつある。

②データベース化　アンガミ・ナガを初め、ナガランド北端のコニャク・ナガ、南端のタンクール・ナガなど７つの主だった集団の首飾りのデータ化が完成した。紅玉髄製ビーズは州の南半分にほぼ限定され、ビーズも指ほどの大きさのものが多い。これに対し北半分ではガラス製の小粒のビーズを数十連も束ねたものが特徴となっている。

③村の立地　一部の村を対象にした空間解 析からは、ほとんどが尾根上に位置するナガの村の立地が、日照時間が最も長い地点でも あることが明らかとなった。これは村の形成 の理由が「首狩りからの防御のため」とするこれまでの通説だけではないことを示している。

④コノマ村　アンガミ・ナガの人々が暮らすこの村では今日なお多くの老若男女（村の 1/3 以上ほどか）が日常的に 1～2 連のシンプ ルな紅玉髄製ビーズの首飾りを身に着けて いる。装身具の伝統をナガ全体の中でも顕著に意識する人々ともいえる。多くは誕生時や結婚などの際に祖父母ないし両親からプレゼントされたものである。

⑤首飾り商人　コノマ村州都のコヒマ近郊のアンガ ミ・ナガが暮らすコノマ村には、少なくとも数世代前からカンバートと直接紅玉髄の取引を行う複数の商人がいた。自らビーズに糸を通し首飾りを完成させ、かつては徒歩で数 週間かけて周辺のアオ・ナガやチャケサン・ナガなどに売っていた。

70 ほどの民族集団の総称である「ナガ」は、1960 年代頃まで各集団間で互いに首狩りをするなど敵対関係にあった。しかしその一方で、そうした集団間を往来する商人が存在し、伝統に根差した首飾りの保持に重要な役割を担っていたことになる。

(3) パキスタン・パンジャーブ州：：紅玉髄製ビーズはカンバートからの輸入だけでなく、イラン産やイエメン産なども知られており、この石が非常に広域に取引きされていたことが窺える。それはイスラーム教の文化圏に 支えられたものであったろう。ラホールでは 多様な準貴石製の祈念用数珠や護符が聖者 廟の前の路上で売られており、厳格な教義ではなく「民衆のイスラームの聖具」としてスンニ派、シーア派のいずれにも根付いている。

また酸を用いてムハンマドの名前などを紅玉髄の表面に白く浮き立たせる漂白技法はその起源がインダス文明にあるとされ、イスラーム教の枠内のみでは納まりきらない。

(4) ミャンマー・ザガイン地方域：基礎的な調査ではあるが、複数のナガが参加する政府主催の新年祭が新たな伝統として定着しつつある現状を確認できた。コニャク・ナガと隣接しており、小粒のビーズが主流である。

(5) 中国雲南省：基礎的な調査ながら、前 3 世紀頃栄えた滇王国で紅玉髄製ビーズが多様されたことや、現在なお保山で採掘されている点などが確認できた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び海外共同研究者には下線）

2017 年度

平成 27-29 年度文部科学省科学研究費 基盤 (B)（課題番号 15H05147）成果報告書（論文計 6 件掲載）。

Koiso, Manabu and Endo, Hitoshi (eds.), *Trade and Values of Carnelian Ornaments in South Asia – Study on Change in 'Tradition' and Social System.* 神戸山手大学。下記掲載論文：査読無。

① Jamir, Tiatoshi and Vasa, Ditamulü Archaeological evidence of beads from Naga ancestral sites. pp: 3-12.

② Koiso, Manabu. Personal Ornaments: Festivals and Identities of the Angami

Nagas. pp:13-36.

③ Endo, Hitoshi The record preservation of red colored personal ornaments in the Naga cultures of northeastern India. pp:37-50.

④ Koiso, Chihiro. Reconsideration of head-hunting among Naga communities. pp:51-60.

⑤ Watanabe, Mitsuko. Changes in residential areas of Nagaland, Northeast India based on multi-temporal satellite images.

⑥ Murayama, Kazuyuki. A View on the Acceptability of Agate or 'Aqiiq in India and Pakistan. pp:69-78.

〔雑誌論文〕（計 6 件）

2016 年

① Endo, Hitoshi Traditional agricultural tools in Keonjhar district, Odisha, India, Endo, H. *Belmont Forum Annual Report FY2015: SMARTS2*, Kindai University（査読無）.

②小磯 学 「インド北東部のもうひとつの「牛」－ミトゥンについて」『日印文化 インド共和国第 70 回独立記念特集号－2016』関西日印文化協会：23-34（査読無）。

2015 年

③ 遠藤 仁「インド北西部における家畜糞利用の現状と課題」『沙漠研究』25(2): 53-58（査読有）

④ 小磯 学 「ヒンドゥー教における牛の神聖視と糞の利用」『沙漠研究』25(2): 43-51（査読有）。

⑤ 小茄子川 歩 「インド・ハリヤーナー州における牛糞燃料の多角的利用方法について－ラキー・カース村とラキー・シャプール村の事例から」『沙漠研究』25(2):59-63（査読有）。

⑥ 小磯 学「インド共和国ナガランド州の観光の現状について」『神戸山手大学紀要』17：175-190（査読無）。

〔学会発表〕（計 12 件）

① 渡邊 三津子・遠藤 仁・小磯 学、「インド北東部における焼畑農業の現代における実践－ナガランド州モコクチュン県の事例から」日本地理学会 2018 年春季学術大会、東京学芸大学、2018 年 3 月 22 日

② Koiso, Manabu What to Wear ? 'Tradition' and Religion of the Naga People. *North-East India & Japan - The Way Ahead : A Cultural Symposium* @Presidency College, Motbung, Manipur, India. 27th February 2018

下記 3 点（③－⑤）：第 28 回ゾミア研究会（於京都大学東南アジア地域研究研究所）、2017 年 10 月 22 日。

③ 小磯 学 「民族集団アンガミ・ナガ（インド北東部ナガランド州）の祭りとアイデンティティ」

④ 遠藤 仁 「物質文化から見たインド北東部の社会変容」

⑤ 渡邊 三津子 「インド北東部ナガ丘陵における集落分布および土地利用の変遷」

⑥ 小磯 学 「インド・ナガランド州の紅玉髄製首飾りをめぐる伝統－アンガミ・ナガの事例から」インド考古研究会、2017 年 7 月 15 日、於東京大学東洋文化研究所。

⑦ 小磯 学 「民族集団ナガの祭り－インド、ナガランド州・ミャンマー、サガイン州の観光の一側面」観光学術学会第 6 回大会、於神戸山手大学、2017 年 7 月 2 日。

⑧ 渡邊 三津子・遠藤 仁・小磯 学、「インド北東部ナガ丘陵における集落の立地と生業空間の変化」、日本地理学会・於筑波大学、2017 年 3 月 29 日。

⑨ 渡邊三津子「衛星データからみる景観情報とフィールド情報の対照について：インド北東部の生業空間に関する事例から」、第 49 回南アジア研究集会・於沼津市民文化センター、2016 年 9 月 10 日。

⑩ Endo, Hitoshi and Manabu Koiso 2016: Bead Making Technology: Comparison of Harappan and Modern Examples in Northwest India. *World Archaeological Congress (WAC)-8 Kyoto,*

28th August 2016.

⑪ Koiso, Manabu, Endo, Hitoshi & Konasukwa, Ayumu Necklace of ethnic groups of NAGAs, State of Nagaland, India - their meaning and function through time. *15th Internatinal Conference of the European Association of Southeast Asian Archaeologists*, Université Paris Ouest, Paris, 10th July, 2015.

⑫ Koiso, Manabu, Endo, Hitoshi & Konasukwa, Ayumu Stone Bead Users (Symbolic value and Trade): the Nagas - Preliminary study. *Short term course cum workshop on History, Science and Technology of Stone Beads*. Indian Institute of Technology Gandhinagar, Ahmedabad, India. 14th August 2015

〔図書〕（計 1 件）

① Koiso, Manabu. Hitoshi Endo and Ayumu Konasukawa. 2017 Stone Bead Users - Symbolic Value and Trade-The Nagas. In Kanungo, A.K.(ed.), *Stone Beads of South and Southeast Asia: Archaeology, Ethnography and Global Connections*, New Delhi, Aryan Books International: 221-230（査読有）.

〔産業財産権〕（計 0 件）

○出願状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ作成：

「南アジアの紅玉髄製工芸品の研究」

http://carnelian.wp.xdomain.jp/

６．研究組織

(1)研究代表者

小磯　学（KOISO, Manabu）
神戸山手大学・現代社会学部観光文化学科・教授
研究者番号：40454780

(2)研究分担者

小磯　千尋（KOISO, Chihiro）
金沢星稜大学・教養教育部・准教授
研究者番号：00624206
(平成 27 年度より研究協力者、平成 28 年度より研究分担者)

渡邊　三津子（WATANABE, Mitsuko）
奈良女子大学・大和・紀伊半島学研究所・協力研究員
研究者番号：10423245

村山　和之（MURAYAMA, Kazuyuki
和光大学・表現学部・講師
研究者番号：80453968

遠藤　仁（ENDO, Hitoshi）
秋田大学・国際資源学研究科・客員研究員
研究者番号：80551548

小茄子川　歩（KONASUKAWA, Ayumu）
京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・客員准教授
研究者番号：20808779
（平成 27 年度より研究協力者、平成 29 年度 11 月 10 日より研究分担者）

(3)海外共同研究者

JAMIR, Tiatoshi
Department of History & Archaeology
Nagaland University. Associate Professor.

VASA, Ditamulü
Department of History & Archaeology
Nagaland University. Associate Professor.

(4)現地協力者

MOORE, Elizabeth
SOAS, University of London.

TAN, Terence
Yangon University.

KUOTSU, Vilieme
Jotsoma, Nagaland.

SHAIKH, Anwar Hussein Inayat
Inayat Agate, Khambhat.